

十八親和アートギャラリーでは、2月26日より春季小企画「陶板画展～暮らしの彩り」を開催いたします。

陶板に絵付けや印刷を施した陶板画は、長い年月を経ても美しい意匠と色彩が保たれる特徴があり、贈答や記念の品として親しまれるなど身近な美術品のひとつと言えます。本展では、十三代 酒井田柿右衛門の作品をはじめとする有田焼のほか、九谷焼、洋画家が作画したもの、企業の記念品として制作されたものなど9点をご紹介します。

このほか、近代洋画、日本画、陶磁器、ロシアアイコンなど約140点の常設展示も行っております。

十三代 酒井田柿右衛門（さかいだ・かきえもん）：1906～1982。十二代 酒井田柿右衛門の長男として生まれる。有田工業学校製陶科卒業。18世紀後半に途絶えた「濁手（にごしで）」と呼ばれる製法を父とともに復元する。1963年父親の死去に伴い十三代を襲名。1971年柿右衛門製陶技術保存会を設立して会長に就任。同年、重要無形文化財「柿右衛門（濁手）」総合指定される。*

※1976年の法改正により柿右衛門製陶技術保存会が保持団体として認定され現在に至る。

【春季小企画】

陶板画展

暮らしの 彩り

Kurashino
Irodori

2022 2.26_[土] ▶ 3.26_[土]

十八親和アートギャラリー

【開館時間】10:00～16:00（入館は15:30まで）
【休館日】日・月・祝日、年末年始（12/31～1/3）

※土曜日が祝日の場合は開館

長崎県佐世保市島瀬町4-24
十八親和銀行島瀬ビル1F
TEL.0956-23-4856
西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分
JR佐世保駅から徒歩約20分

鑑賞
無料



十三代 酒井田柿右衛門「錦梅花文陶額」

